

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立門前高等学校

重点目標 1 探究活動やボランティア活動をととして地域活性化に貢献する資質・態度を育成し、地域を支える人材を育成する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考									
・地域活性化に貢献する資質・態度の育成	・「総合的な探究の時間」の充実 ・地域との連携 ・そばづくり体験	教務課	・輪島市、總持寺及び總持寺通り商店街、その他関係機関等と連携して、門前地域特有の歴史や文化を学び、他の地域に誇れる地域の特性を知り、商店街の活性化や地域貢献の在り方について考えを深めていく必要がある。	【成果指標】（教員） 探究活動を通して、ふるさとの文化や産業、地域で活躍する人を知り、ふるさとに誇りと愛着を持たせることができた。	「ふるさとに誇りと愛着を持たせることができた」と評価した教員の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>できた</td></tr> <tr><td>②</td><td>概ねできた</td></tr> <tr><td>③</td><td>余りできなかった</td></tr> <tr><td>④</td><td>全くできなかった</td></tr> </table>	①	できた	②	概ねできた	③	余りできなかった	④	全くできなかった	教員対象調査 (7, 1月)
				①	できた										
②	概ねできた														
③	余りできなかった														
④	全くできなかった														
【成果指標】（生徒） 探究活動を通して、ふるさとの文化や産業、地域で活躍する人を知り、ふるさとに誇りと愛着を持つことができた。	「ふるさとに誇りと愛着を持つことができた」と評価した生徒の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>できた</td></tr> <tr><td>②</td><td>概ねできた</td></tr> <tr><td>③</td><td>余りできなかった</td></tr> <tr><td>④</td><td>全くできなかった</td></tr> </table>	①	できた	②	概ねできた	③	余りできなかった	④	全くできなかった	生徒対象調査 (7, 1月)				
①	できた														
②	概ねできた														
③	余りできなかった														
④	全くできなかった														
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・總持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等 ・各種地域行事への参加	総務課 生徒会 各学年	・各種地域のイベントやボランティア活動に積極的に協力することで、他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） 参道清掃や海岸清掃遠足、地域のイベントへの参加等を通して、「地域貢献の心」「他者への思いやりの心」「協働する心」が育った。	「「地域貢献の心」「他者への思いやりの心」「協働する心」が育った」と答えた生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>できた</td></tr> <tr><td>②</td><td>だいたいできた</td></tr> <tr><td>③</td><td>余りできていない</td></tr> <tr><td>④</td><td>全くできていない</td></tr> </table>	①	できた	②	だいたいできた	③	余りできていない	④	全くできていない	生徒対象調査 (7, 1月)
①	できた														
②	だいたいできた														
③	余りできていない														
④	全くできていない														

重点目標2 G I G Aスクール研修をととして、個別最適な学びにつなげる教科指導力の向上と両コースの特徴の充実を図り、生徒の多様な進路実現につなげる。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
<ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末やタブレット等の教育ICT環境を活用した生徒一人ひとりに応じた学力の向上や創造性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 教員のICT活用による授業力改善 	教務課 GIGA校内推進リーダー 各教科	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学力に応じた学習指導が必要である。 合理的配慮が必要な生徒への対応が必要である。 	【成果指標】（教員） 「個別最適な学び」につながるよう「ICT（端末機）」を使って学習指導をした結果、生徒の学力を伸ばすことができた。	「個別最適な学び」につながるよう、端末機を使って学習指導を実践した結果、学力が伸びたと評価した教員の割合（①+②）が、 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 伸びた ② 概ね伸びた ③ 余り伸びていない ④ 全く伸びていない	教員対象調査 (7, 1月)
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づき効果的なICT活用による授業力の改善 			「学習支援ソフトを取り入れた反転授業により、授業の理解度が高まった」と答えた生徒の割合（①+②）が、 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 高まった ② 概ね高まった ③ 余り高まらなかった ④ 全く高まらなかった	生徒対象調査 (7, 1月)	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の思考力・判断力・表現力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 門高読書タイムや図書館講座の実施 	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を通して生徒の思考力・表現力・判断力の下支えする力を養成する必要がある。 	【成果指標】（生徒） 「読書タイム」で読んだ本についての感想や考えをアウトプットすることができた。	「読書を通じて自分の感想や考えをアウトプットすることで、思考力や表現力が高まった」と答えた生徒の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 高まった ② 概ね高まった ③ 余り高まらなかった ④ 全く高まらなかった	生徒対象調査 (7, 1月)
<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」の充実による進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業 朝補習 放課後補習 個別指導 	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路志望の生徒に応じた指導力の更なる充実が求められている。 大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導力の向上が求められている。 	【成果指標】（教員） （1・2年生） 基礎学力診断テスト（スタディサポート）や全国模試の成績を伸ばすことができた。	「基礎学力診断テスト（スタディサポート）や全国模試の成績を伸ばすことができた」生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	7月と1月ベネッセ総合学力テストの比較（全国偏差値） 基礎学力診断テスト（スタディサポート）の成績比較	対外模試結果
				【満足度指標】（生徒） （3年生） 卒業後の自分の進路について満足している。	「卒業後の自分の進路について満足している」と評価した生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 満足している ② だいたい満足している ③ 余り満足していない ④ 全く満足していない	生徒対象調査 (1月)
<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の醸成と早期確立 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師によるキャリア教育講演会 ふるさと事業 企業人インタビューDVDの活用 インターンシップ 進路ガイダンス 進路学習 上級学校キャンパスツアー 出張オープンキャンパス 地元企業見学会 アントレプレナーシップ事業 	進路指導課 各学年	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成している。 	【成果指標】（生徒） 自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができたようになった。	「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができたようになった」と評価した生徒の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① できるようになった ② だいたいできるようになった ③ ほとんどできない ④ 全くできない	生徒対象調査 (7, 1月)

重点目標3 教員の生徒理解力、教育相談力、危機管理能力の実践力向上に努め、生徒の心理的安全性を保障する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		備考
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察，生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒相談課	・「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち，未然防止に尽力する。	【成果指標】（教員） 研修会等でいじめ問題について理解を深め，予防的な生徒指導に結び付けている。	「研修会等によって，いじめ問題について理解を深め，予防的な生徒指導に生かしている」と答えた教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 生かしている	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ね生かしている	
						③ 余り生かしていない	
						④ 全く生かしていない	
・インクルーシブ教育を推進し，合理的な配慮が必要な生徒等，多様な生徒への理解力，対応力の向上	・担任，教科担当者，スクールカウンセラーによる個人面談の実施と情報共有 ・七尾特別支援学校輪島分校生徒と行事を協働実施	生徒相談課	・個々の生徒についての情報を共有し，必要に応じて合理的配慮を行っている。	【成果指標】（教員） インクルーシブ教育を推進し，合理的配慮をはじめ，個々の生徒に対する理解度が高まり，個に応じた適切な対応ができる。	「合理的配慮をはじめ，個々の生徒に対する理解度が高まり，個に応じた適切な対応ができる」と答えた教員の割合が（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ねできる	
						③ 余りできない	
						④ 全くできない	
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒相談課	・指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 1人ひとりの教員が，生徒の困り感を察知し，適切な声かけや親身になって相談に応じてくれるなど，日常的に心理的安全性を保障している。	「1人ひとりの教員が，適切な声かけや親身になって相談に応じてくれるなど，日常的に心理的安全性を保障している」と答えた生徒の割合が（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 保障されている	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ね保障されている	
						③ 余り保障されていない	
						④ 全く保障されていない	
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒相談課	・指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 校内でのスマートフォンや携帯電話によるインターネットトラブルに対する安全対策を実践している生徒の割合が高まっている。	「スマートフォンや携帯電話によるインターネットトラブルに対する安全対策を実践している」と答えた生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 実践している	生徒対象調査 (7, 1月)
						② 概ね実践している	
						③ 余り実践していない	
						④ 全く実践していない	
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒相談課	・指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（教員） 私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し，指導に生かしている。	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し，指導に生かしている」と評価した教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 生かしている	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ね生かしている	
						③ 余り生かしていない	
						④ 全く生かしていない	
・あいさつの習慣化	・あいさつ運動（交通安全指導と同時に）の実施 ・教員側の率先垂範	生徒相談課	・学校内外問わず，積極的にあいさつができるようにする。	【成果指標】（生徒） 学校内外問わず，積極的にあいさつができるようにする。	「学校内外問わず，積極的にあいさつができた」と答えた生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ねできる	
						③ 余りできない	
						④ 全くできない	
・各種有事の際の対応	・危機管理マニュアルの継続的な見直し ・ねらいを持った各種訓練の実施	総務課	・各種有事の際の対応の仕方を身につけており，生徒の安全を確保できることが必要である。	【成果指標】（教員） 各種有事の際，生徒の安全を確保できる。	「各種有事の際，生徒の安全を確保できる」と答えた教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ねできる	
						③ 余りできない	
						④ 全くできない	

重点目標 4 目標管理型校務運営を組織的・協働的におこない、業務改善を進め、ワークライフバランスと教育活動の両立を実践する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、取組をPDCAサイクルで検証しながら、効率的・戦略的に分掌業務の成果目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を数値化し、その目標を実現するための具体策を立てる。また、その成果と課題を検証し、改善を図る。 	各課	<ul style="list-style-type: none"> 目標を数値化し、PDCAサイクルで検証しながら、分掌業務の成果目標を達成する資質・能力を高める必要がある。 	<p>【成果指標】（教員）</p> <p>PDCAサイクルによって改善点を明確にしなが業務を遂行することで、目標を達成することができた。</p>	「PDCAサイクルによって改善点を明確にしなが業務を遂行することで、目標を達成することができた」と答えた教員の割合（①+②）が	教員対象調査 (7, 1月)	
					①		できた
					②		概ねできた
					③		余りできていない
④	全くできていない						
<ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 最終退校時刻の遵守 定時退校日の個人設定（各月1日） 業務振り返りシートの作成 	全教員	<ul style="list-style-type: none"> 教員の時間外勤務解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。 	<p>【成果指標】（教員）</p> <p>最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている。</p>	「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている」と答えた教員の割合（①+②）が	教員対象調査 (7, 1月)	
					①		行っている
					②		概ね行っている
					③		余り行っていない
④	全く行っていない						
					A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満		
					A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満		

重点目標 5 連携型中高一貫校の特徴を活用した教育活動のさらなる充実を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
<ul style="list-style-type: none"> 連携型中高一貫校の特徴を活用した教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 連携型中高一貫教育の交流 中高合同行事 	中高連携担当 各課 各教科	<ul style="list-style-type: none"> 中高での連携を深め、教育活動の充実を図る必要がある。 	<p>【成果指標】（教員）</p> <p>連携型中高一貫教育校の特徴を活かした教育活動を通して、門前高校に対する信頼を得て、門前中学校からの入学者の割合を高める。</p>	門前中学校から門前高校への入学生の割合が	門前中学校卒業生に対する門前高校入学者の割合で評価
					A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	